

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

「ダボス会議」 in 中国

JSC 貿易部ニュース

毎号、当社のメールマガジンをご覧ください誠にありがとうございます。



今月はちょっとお堅い話から…

6月27日、中国・天津市で「夏季ダボス会議」が始まりました。コロナ禍で中止が続き、4年ぶりの開催だそうです。日本でも新聞・テレビのニュースになっていましたが、アメリカやEUで進む、「デリスク（中国依存を減らすリスク回避）」の動きに強い警戒感を示す中国が、開幕式の演説で経済の開放と国際協力の必要性、自由貿易を支持する中国の姿勢??を訴える形でスタートしました。

私の記憶では、ダボス会議はスイスの山奥に世界のリーダーが集まり、色々議論する会議と聞いていたのですが、中国で開催される「ダボス会議」とはどのようなものなのでしょう???

夏季ダボス会議とは、スイス・ダボスで毎年1月に開かれている国際会議の中国版だそうです。第1回の開催は2007年で、2019年までは毎年夏に大連と天津で交互に行われていたようで、新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催がニュースとして取り上げられていた訳です。

今回のダボス会議は、「成長の再始動」、「グローバルな背景の中国」、「エネルギーのモデル転換と材料の供給」、「自然・気候の保護」、「ポストコロナ時代の消費トレンド」、「イノベーションの展開」という6大テーマを中心に進められるそうです。

それぞれのテーマやそのときどきの経済や国際情勢に対して、世界のリーダーたちがどのような見通しを示すのかに世界から高い関心が寄せられるダボス会議、その議論が各国の政策や企業行動に影響を与えてきた経緯もあり、毎回議論の内容が注視されています。

でも最近のダボス会議は、世界に向かって「これからの正義はこれだ」というような方向性の押し付けがやや強い印象も受けます。単なる経済活動というよりは、道徳やモラルを説くような雰囲気醸し出しているというか、政治的なメッセージの発信の場になっているような感じもしますね。

でも、そもそも『ダボス会議』とは、何なのでしょう？
調べてみると、

ダボス会議とは、スイス・ジュネーブに本拠を置く非営利財団、世界経済フォーラムが毎年1月に、スイス東部の保養地ダボスで開催する年次総会とのこと。

1971年にダボスの街おこしと、ヨーロッパ経済の再活性化を目的に、スイス人経済学者クラウス・シュワブ氏が立ち上げた「ヨーロッパ経営シンポジウム」が、「ダボス会議」の名で知られる「世界経済フォーラム」の始まりだそうです。

街おこし… 知りませんでした。

しかしながら、現在参加には年会費など600万円近くの費用が必要と言われ、日本から参加の場合は、渡航費や宿泊費等を含め、1000万円もの費用が必要となるハイソな会議です。ダボス会議に招かれるのは、世界を代表する政治家や実業家たちなので、招かれること自体がステータスなのではないでしょうか。参加に莫大な費用の掛かる会議ですが、参加希望の企業が後を絶たない催しのようです。

世界が混とんとする中で、各国の思惑が色々垣間見れる部分もありますので紹介をさせていただきました。

さて、今月の石種紹介 — 「G1168」 久しぶりの糠目のご紹介です。

産地は湖北省です。最近は糠目の石があまり出回っていませんでしたが、このタイミングで工場に「G1168」が約 1000 才入荷しましたので、ご紹介させていただきます。今回入荷の原石、長尺対応は 6 尺くらいまで大丈夫です。

糠目ファンの石材店様、是非ご検討下さいませ。サンプルのご請求や価格のお問合せがございましたら当社営業員にお申し付けください。



来月は中国出張で得た情報も交えてご紹介して参りますのでご期待ください。

それでは、今月も「JSC 貿易部ニュース」、最後までご覧頂き誠にありがとうございました。

2023/07/01